
幻想昭和少女

雅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幻想昭和少女

【Nコード】

N5740B

【作者名】

雅

【あらすじ】

時代背景は昔っばいのにエレベーターがあつたりと、パラレルミ
たいな設定になってます。（昭和初期ってエレベーターあつたんで
すか？）古典風です。

幼い娘の嘸

或る町に、五歳ほどに為る娘が居た。

其の娘は大変に無知で、勉学を行った事が無かったのである。

母親は其の事を気にすることなく育ててきた為、本人も”勉学”という言葉の葉すら知らずに過ごして居た。

或る日、母子が近所のデパートまで買い物をしに行ったときのこと。

片手に白い袋を下げた母親が、もう片方に娘の手を包み、エレベイタアに乗った。此の時のエレベイタアは、茶色くくすんだ色だったために娘が至極不服そうな顔をして居た（娘は茶色が嫌いだったようだ）。

中には初老の男性と女学生の二人が居た。娘はちらちらと女学生を気にしながら、母親の手をしっかりと握っている。

母親はドア近くに立ち、朱く光る釦に人差し指を這わせる。

其の釦には一から六迄の数字が刻まれていて、母親は目的の数字を見付けると、何か思い付いたように微笑んだ。

ちよいと、釦を押して御呉れ。

母親が娘に頼む。釦は娘のすぐ上に在り、背伸びをしなくとも簡単に届くであろう低さで在った。

しかし娘は目線をひらひらと辺りに向けるばかりで釦を押して呉れない。

釦ですよ、と母親が囁くが、娘はちつとも釦を見やしない。どうしたのかと母親が問うと。

牡丹なんて何処にあるの、この中にあんな綺麗な花は無いよ。

最初、母親は何を言っているのかわからずにいたが、やがて頭に
あの花が浮かんだのであろう、苦笑して娘の手を釦へと導いた。
其の時、見知らぬ初老の男性が口を開いた。

その子はもしか脳に障害が在るのではないでせうか。御幾つに為りますか。

母は恥ずかしそうに顔を朱くさせながら、娘の歳を答え、そそくさとエレベータアから出て行ったさうな。

やはり幼子であっても、勉めは必要なので在る。

(後書き)

漢字の使い方や文法の間違いは心の中でおねがいします。お読みいただきありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5740b/>

幻想昭和少女

2010年11月1日10時20分発行